

URL取得方法変更に伴う、OCTO DB migrationについて

なぜURL取得方法変更したのか？

URL取得効率の向上の目的で、URLフォーマットとURL生成に必要なデータをクライアントに提供して

クライアント側でURLを生成することで無駄なリクエストを減らしクライアントの性能向上に貢献するためです。

Github Issue : [#73](#)

Migration事前準備

- ・ Migrationの時は新規データの作成及び更新は行わないように運用側と相談しMasterへの新しいデータ挿入及び更新を止める必要がある

※Slaveは通常通り利用できます。

Migration実行順序

- ・ OCTO DBにAlter SQLを流す

```
ALTER TABLE `octo`.`files`  
ADD COLUMN `generation` BIGINT(20) NULL AFTER `crc`;  
  
ALTER TABLE `octo`.`resources`  
ADD COLUMN `generation` BIGINT(20) NULL AFTER `size`;
```

- ・ config.tomlファイルの準備（DB情報を記入）

```
[database.master]
addrs = "localhost:3306"
dbname = "octo"
user = ""
password = ""

[database.slave]
addrs = "localhost:3306"
dbname = "octo"
user = ""
password = ""
```

- ・ octo-gen-batchを実行(Migration実行、generationカラムに値を入れるバッチです。)

※DBにアクセスできるホストで実行してください。

※buildを実行する前に各環境をセットしてビルドください。

LinuxGOOS=linux GOARCH=amd64 go build

WindowsGOOS=windows GOARCH=amd64 go build

MacGOOS=darwin GOARCH=amd64 go build

```
cd src/octo-gen-batch
# Linux
GOOS=linux GOARCH=amd64 go build
./octo-gen-batch --conf="config.tml"
```

- ・ 最新のAPIのリリース

上記、バッチの実行が終わったら

<https://github.com/QualiArts/hilo-octo-server>

から最新のソースをCloneしてリリースしてください

- ・ ファイルアップロードテスト

octo-cliを利用して、ファイルアップロードできるか確認してください。

その時、files, resourcesテーブルのgenerationカラムにデータが入っていることを確認してください。

- ・ 既存の OCTO Unity SDKが入ってるClientからの動作確認

AssetBundleデータがダウンロードできることを確認してください。

- ・最新のOCTO Unity SDK（URL取得変更版）が入ってるClientからの動作確認

AssetBundleデータがダウンロードできることを確認してください。

通常の利用に戻る

上記、Migrationが問題なく完了しましたら、Master DBへの更新が可能です。通常の利用に戻って問題ありません。